

中国・韓国・台湾のメディアがクルーズで瀬戸内海の魅力を満喫！

- ビジット・ジャパン・キャンペーン事業レポート -

神戸運輸監理部企画課長補佐 塚本

平成 20 年 7 月 14 日から 19 日、平成 20 年度 VJC 地方連携事業として 5 泊 6 日の日程で「瀬戸内海クルーズ・インバウンド商品化事業」が実施されました。招聘されたのは、中国・韓国・台湾のマスコミと旅行エージェント 14 名と通訳を含む計 18 名です。

「瀬戸内海クルーズ・インバウンド商品化事業」行程表（7 月 14 日～19 日）

14 日	松山空港着 - 松山城 - 砥部焼窯元 - 道後温泉ホテル（泊）
15 日	坊ちゃん列車乗車 - 松山～広島港～宮島厳島神社～宮島口（この間船利用） - 平和公園 - 広島港（船内交流会） - 広島市内ホテル（泊）
16 日	神戸 - 神戸港～（クルーズ船）～瀬戸田港沖（船中泊）
17 日	平山郁夫美術館 - 浄土寺・千光寺公園 - 瀬戸田港 - 高松港（船中泊）
18 日	栗林公園 - うどん学校・金丸座 - 高松港～神戸港 - 神戸市内ホテル（泊）
19 日	六甲山頂施設 - 南京街 - 神戸空港～（船）～関西国際空港

最初に、今回の VJC 事業の特徴点を二つ述べます。

一つは、「クルーズ体験」です。単に移動手段としてだけではなく、瀬戸内海の島々に沈む夕日を眺めるなどその素晴らしい景観を満喫してもらい、クルーズ船ならではの船内施設やイベント等を楽しんでもらうものです。そのため、豪華クルーズ船「ぱしふいっくびいなす」で行く「せとうち・感動体験クルーズ（注）」を利用し、また、全行程中の移動や交流会等もできるだけ船を利用しました。

もう一つは、瀬戸内海という共有の観光資源を利用してその周辺地域の観光ポイントを視察する「広域連携」という点です。国の行政機関では神戸運輸監理部・中国運輸局・四国運輸局という 3 つの組織が連携し、関係する県・市の地方自治体も広範囲に及ぶ VJC 地方連携事業では全国初の広域連携事業となりました。

注：神戸港を母港とした瀬戸内海クルーズの事業化をめざして、クルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」（26,561 総トン）をチャーターして行った神戸経済同友会主催、神戸運輸監理部後援のテストクルーズです。

私が同行した 7 月 16 日から最終日までの 4 日間の様子を、次のとおりレポートします。

1 日目

7 月 16 日 11 時、七色のテープが舞う中、ブラスバンドの演奏と出航見送りイベントに参加した幼稚園児や一般市民に見送られ、神戸港を出航。今回の国内向けクルーズの乗客約 480 名中、外国人は VJC の 14 名です。



みんなに見送られて出航です

2 日目

7 月 17 日 08 時 40 分、瀬戸田沖にて錨泊中の本船から通船に乗って瀬戸田港に到着。尾道市観光課のマッキーこと牧本さんの案内で、瀬戸田の街並みを散策して平山郁夫美術館に。ここで、



千光寺公園から街を眺める

西の日光とも呼ばれ鮮やかな色彩装飾で有名な耕三寺を取材したいというリクエストが出てきて、時間を切りつめ予定変更。なかなか大変です。

その次に向かったのは、バスで移動して浄土寺と千光寺。ボランティアガイドの案内で標高 144mの小高い展望台から尾道の市街地と狭い水道を行き交うフェリーなどを眺め、文学の小道を歩いてしゃべりながら下山です。途中、こんな質問が。

正岡子規の“のどかさや小山つづきに塔二つ”の碑の前で「この季語は？」「へっ(私)」「季語は？」「さあ、のどかさやですかね(私)」「それは春ですか？」「うーん(私)」。できるだけ理解してもらおうとしたのですが、日本文学について間違っただけの紹介をされないことを祈るばかりです。

3日目

7月18日09時、高松港岸壁から最初に向かった先は栗林公園。これぞ“侘び寂び”という建屋に入り、抹茶と和菓子が用意された茶室から眺める見事な庭園の素晴らしさにみんな感激。お茶の作法実演のリクエストもありましたが、こんなところが限られた時間の中での行程づくりの難しいところです。



お抹茶のおもてなし 栗林公園

次に、こんぴらさんに向けて約1時間のバスの旅です。

案内役は通訳さんもベタ褒めの香川県観光協会の土居さん。ゆっくりと大きな声でセンテンスを区切り、香川の自然・食べ物・文化・産業などについて話されました。VJCでの案内のコツは、「全国で 番目」など、わかりやすい特徴を入れることだそうです。うーん、なるほど。

こんぴらさんに到着して門前町を散策した後はお待ちかねのうどん作り体験です。中野うどん



うどん作り体験で興奮！

学校の校長先生(まっちゃん)の指導のもと、エプロンをつけ、手でこね、足で踏み、つくった団子を麺棒でのばして、麺状に包丁切りです。とくに足で踏み踏みする際は、それぞれのお国での最新曲なども流してダンスしながら、みんなノリノリです。一気に私たちとの距離感が縮まった気がしました。

その後、歌舞伎の舞台として使われている金丸座では、奈落の底と言われる舞台裏を見学して、帰路につきました。

4日目

7月19日09時、昨夜神戸港に到着した一行が泊まったホテルに迎えに行きました。本日の案内役は、神戸市観光交流課の田中さんと兵庫県観光交流課の本多さんです。

最初に向かった先は、神戸の街並みそして大阪湾を一望できる六甲山の山頂付近にある六甲ガーデンテラス。残念ながら、少し雲がかかっていて素晴らしい景色を眺めることができず、年代物のオルゴールを中心とした自動演奏楽器を集め、その演奏が聴けるホール・オブ・ホールズ六

甲へ移動。六甲山の涼しい空気の中に奏でるアンティークな音色に、都会の喧噪も忘れてしばしうっとりです。

六甲山を下山し、神戸元町南京街の中華料理店に到着です。地元のホテル関係者や旅行エージェントも交えての昼食交流会場です。VJC 一行も行程中ではじめての中華料理ということで喜び、円卓テーブルを挟んで談笑している様子に、ホッと一安心です。

最後に、神戸空港にご案内し、関西国際空港向けの高速船乗り場でみなさんと握手してお別れです。



感想

みなさん同じだと思いますが、やはり気掛かりは「集合」でした。お国柄もあるのですが、マスコミ及び旅行エージェントの方たちがカメラを構え散らばってしまうと、そう簡単に集まってはくれません。帰船時刻に間に合わなかった場合、次の便はありませんから、とにかく予定通りこなせて何よりでした。

観光全体ではと言うと、素晴らしい伝統美や景観美を楽しむ観光も必要ですが、やはり「体験モノ」が記憶に残って、誰かに伝えたいという気持ちにさせるようで面白いなと感じました。今回も様々な体験をしてもらいましたが、中でもうどん作り体験は格別だったようです。クルーズ体験も大方満足してもらったと思いますが、国内クルーズ向け“ぱしふいっくびいなす”ではVJC一行は入港歓迎イベント以外の船内イベントには参加しづらかったようですし、現時点で瀬戸内海定期クルーズがありませんので、その点をメディア等にどう紹介するかというところに難しさが残ります。

広域連携という点では、大いに可能性を残すことができたと考えます。今回は「瀬戸内海」と「クルーズ」の2つで取り組みましたが、歴史や文化、自然、食べ物など、さらに別の共通テーマを加えた取り組みの可能性も示せましたし、広域的に取り組むことで、個々の魅力をさらに引き立たせることもできたと思います。



そして、それぞれのおもてなしの素晴らしいところを直接見る機会を得た私自身、一番勉強になりました。今後、広域連携の中で観光業務に携わられている方たちが経験交流でき、さらに観光を通して地域の振興に寄与することになれば素晴らしいと思います。